

# 医学教育における Faculty Development<sup>\*1</sup>

堀内 三郎<sup>\*2</sup> 田中 勸<sup>\*3</sup>

## はじめに

ファカルティ・ディベロップメント (Faculty Development: FD) とは、大学、研修病院などの機関、並びに個人の教育、研究、診療、マネージメントの能力・機能を高める活動と定義することができる。

今期 (1998～2001年) は、わが国の医学教育の変革、特に FD 活動に大きな変化がみられた。すなわち、1998年10月に出された大学審議会答申「21世紀の大学像と今後の改革方策について」は、21世紀に向けたわが国の大学改革の大きな方向を位置づけた<sup>1)</sup>。この答申を踏まえて1999年2月に「21世紀に向けた医師・歯科医師の育成体制の在り方について」が提言され<sup>2)</sup>、2001年3月には「21世紀における医学・歯学教育の改善方策について—学部教育の再構築のために—」が具体的に示された<sup>3)</sup>。その柱は、1) カリキュラムの在り方について、2) 臨床実習開始前の学生の適切な評価システムについて、3) 臨床実習の充実について、4) 教育能力の開発の推進についての4つである。いままでの教育改革案ではあまり強調されなかった「教育能力の開発の推進」にスポットを当てたことは特筆すべきことと考える。特に、従来の「教員能力開発」に加えて、「教育組織の能力開発」や「教員の教育業績評価」の重要性まで言及したことは、今後のわが国の医学教育改善を大きく推し進める原動力の1つになると期待される。

本項では、1998～2001年のFD活動の中心となる医学教育ワークショップ (Workshop: WS) を中心に報告する。

## 1. 医学・歯学教育指導者のためのワークショップ

本WSは、医学教育振興財団主催で従来から行われてきた「医学教育指導者フォーラム」に引き続いて開催された。本WSは、文部科学省、医学教育振興財団の主催、全国医学部長病院長会議、国公立大学歯学部長会議、私立歯科大学協会の協力によって開かれ、全国の医科大学・歯科大学の学長、医学部・歯学部の学部長を参加対象とした組織リーダーのためのWSである。「第1回医学・歯学教育指導者のためのワークショップ」は、2001年7月3日の「医学教育指導者フォーラム」に引き続いて、7月4、5日の2日間にわたって、東京のフロラシオン青山で開かれた。参加者は医科82名、歯科27名であった。本WSの主な目的は、「教育組織の能力開発」、特にリーダーシップとマネージメント・スキル、プロフェッショナル・アカデミック・スキルなどである。第1回は、組織体制、教育内容ガイドラインへの対応、カリキュラムの統合化、教育評価がテーマで、各組織の現状分析と今後の対応策が話し合われた。2002年8月23、24日に第2回目が東京医科歯科大学で「教育評価および共用試験」と「FD」を話題として開かれる予定である。

## 2. 医学教育者のためのワークショップ (通称：富士研ワークショップ)

このWSは、わが国における医学教育ワークショップの原点であり、1974年12月14～21日に静岡県裾野市の富士教育研修所で第1回が開催された。爾来、毎年1回行われ、2001年12月までに28回開催された。これまでの参加者総

<sup>\*1</sup> Faculty Development for Medical Education in Japan

キーワード：ファカルティ・ディベロップメント、ワークショップ、カリキュラム・プランニング、OSCE、医学教育開発研究センター

<sup>\*2</sup> Saburo HORIUCHI 岩手医科大学学生化学

<sup>\*3</sup> Susumu TANAKA 東海大学医学部総合診療部

表1 医学教育者のためのワークショップ (1998~2001年)

回	開催年月日	主催	協力・後援	主 題	参加者数	講師数		
						TF	C	D
25	1998.11.29 ~12.4	厚生省 文部省	日本医学教育学会 医学教育振興財団, WHO	カリキュラム・プランニング	40	7	2	2
26	1999.11.28 ~12.3	厚生省 文部省	日本医学教育学会 医学教育振興財団, WHO	カリキュラム・プランニング	40	7	2	2
27	2000.11.26 ~12.1	厚生省 文部省	日本医学教育学会 医学教育振興財団, WHO	カリキュラム・プランニング	40	6	5	1
28	2001.12.2 ~7	厚生労働省 文部科学省	日本医学教育学会 医学教育振興財団, WHO	カリキュラム・プランニング	40	6	3	1

TF：タスクフォース，C：コンサルタント，D：ディレクター

数は1,032名となった<sup>4)</sup>。

本項では、第25回（1998年）から第28回（2001年）の医学教育者のためのワークショップの概要について報告する。表1に、第25回から第28回の開催年月日、主催、協力・後援、主題、参加者数、講師数についてまとめた。今期4回のWSの内容は、前半でカリキュラム・プランニングを進める上で最も基礎となる教育の目標、方略（方法と資源）、評価を順次修得し、後半で「新しい課題に対する教育技法の開発」の提示とプロジェクト作業を行い、習熟度の高いものとなっている。プロジェクト作業で取り上げられた課題は、生命倫理、医の倫理、基礎配属、医療経済、EBM、緩和ケア、在宅ケア、病診連携、リスク・マネージメント、救急医療、保健医療、地域医療、院内感染などである。

第25回は、四半世紀の記念のWSということで、本WSの生みの親、育ての親の日野原重明先生と館正知先生の特別講演2題が行われた。また、この会期中に富士教育研修所への記念品贈呈が話題となり、有志の寄付を募り、翌春、花梨の木とブナの木が研修所内の庭に植えられた。第26回は、日野原重明先生の特別講演「最近のハーバード大学を中心としたアメリカの医学教育」のほかに、米国スタンフォード大学内分泌フェロー赤津晴子氏の特別講演「アメリカの卒前・卒後医学教育—自らの体験から」が組まれた。第27回は、主催者からの「本WSの在り方についての見直し」の要望があり、ディレクター1人制、新しい課題に対応する医学教育の開発として、

OSCEの「解説と演習」「企画書作成」「評価表・評価マニュアル作成」「合否判定基準」などを取り上げ、時代に即応した内容の充実に努めた。第28回は、卒前モデル・コア・カリキュラムや共用試験ならびに卒後臨床研修の必修化などの直面する諸問題に鑑み、「コア・カリキュラムと共用試験OSCE」「臨床研修必修化と標準化OSCE」について、「評価者トレーニング」と「臨床研修の指導評価の在り方」という観点から、OSCEについて1日半の時間が割り当てられた。

「医学教育者のためのワークショップ」は、厚生労働省、文部科学省の両省の主催により、全国の医科大学・医学部から20名、臨床研修病院から20名の指導者を一同に集め、大自然の懷で6日間寝食を共にして教育の原理・技法を学び、卒前・卒後の教育の連携と新しい課題への対応を議論し、共に育つことの魅力を与えてきた。また、後述する機関単位のWSの立ち上げとその推進の原動力の1つになってきた。この実績は、今後の日本の医学教育改革への方向性を示した「21世紀における医学・歯学教育の改善方策について」の柱の1つである「教育能力の開発の推進」に合致するものと考えられる。

### 3. 臨床研修指導医養成講習会（通称：臨床研修ワークショップ）

本WSは、臨床研修研究会の主催、厚生労働省、日本医師会、医学教育学会の後援、医療研修推進財団（Foundation for Promotion of Medical Training: P-MET）の運営委託によって開催さ

表2 臨床研修指導医養成講習会（臨床研修ワークショップ）

回	開催年月日	場 所	主 催	委 託	後 援	主 題	参加者数
4	1998.9.29～10.3	神 戸	臨床研修研究会	医療研修推進財団	厚生労働省 日本医師会 日本医学教育学会	臨床研修開発	49
4	1998.12.8～12	神 戸	同	同	同	同	50
4	1999.1.12～16	三 島	同	同	同	同	51
4	1999.2.9～13	軽井沢	同	同	同	同	49
5	1999.9.28～10.2	三 島	同	同	同	同	50
5	1999.12.7～11	葉 山	同	同	同	同	52
5	2000.1.11～15	神 戸	同	同	同	同	52
5	2000.2.15～19	刈 谷	同	同	同	同	48
6	2000.9.19～23	神 戸	同	同	同	同	51
6	2000.12.12～16	軽井沢	同	同	同	同	48
6	2001.1.9～13	御殿場	同	同	同	同	53
6	2001.2.13～17	三 島	同	同	同	同	52
7	2001.9.18～22	神 戸	同	同	同	同	49
7	2001.12.11～15	軽井沢	同	同	同	同	48
7	2002.1.8～12	御殿場	同	同	同	同	54
7	2002.12.2～16	軽井沢	同	同	同	同	49

れている。第1回は1996年2月20～24日に御殿場で行われた。本WSの主題は「臨床研修開発」であり、オリエンテーション・プログラムを含むカリキュラム立案能力ならびに臨床研修指導技法を習得することを目的としている。プロジェクト作業の課題として、QOL、インフォームド・コンセント、外来診療、保険診療、地域医療、医療事故、院内感染、救急医療、医療経済、チーム医療、災害医療、遠隔医療、医療倫理、EBM、Health Education Promotion、在宅医療、緩和医療、全人的医療などが取り上げられている。

1998年度から2001年度の臨床研修指導医養成講習会の概要を表2に示す。本WSは24会場で行われ、参加者総数は1,200名となった<sup>5)</sup>。

2004年度からの臨床研修必修化を目前にして本WSの果たす役割は非常に大きいといえる。

#### 4. 全国共同利用施設・医学教育開発研究センター岐阜大学・医学部

2001年4月1日に全国共同利用施設・医学教

育開発研究センター（Medical Education Development Center: MEDC）が岐阜大学・医学部に開設された。本組織はテュトリアル部門とバーチャルスキル部門からなる。MEDCは、テュトリアル教育の教材、OSCE、標準模擬患者参加型臨床医学実習、コンピューター支援医学教材（患者ロボット、双方向型学習デジタル教材）などの開発に取り組んでおり、新しい医学教育の研究開発とその普及を主な役割としている。その他、研修業務として、医学・医療関係者を対象に、持込み企画を含む医学教育セミナーとWSを年4回開催している。

#### 5. 日本医学教育学会ワーキング・グループ主催ワークショップ

##### 1) 基本的臨床技能の教育技法ワークショップ

本WSは、日本医学教育学会の臨床能力教育ワーキング・グループが主催し、日本赤十字武蔵野短期大学を会場として2泊3日で開催されている。1996年11月22～24日に第1回が開か

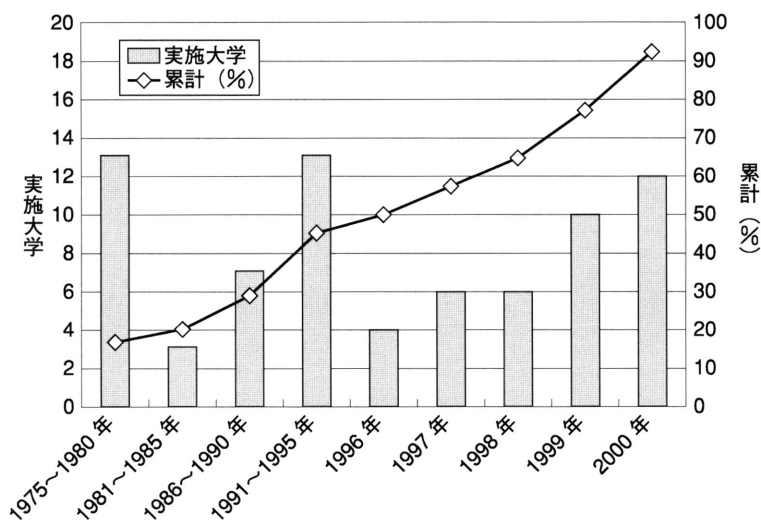


図1 学内ワークショップの年代別実施大学

れ、年1回10月中旬頃に毎年開かれてきた。2001年までに既に7回開催され、参加者総数は207名になった<sup>6)</sup>。

## 2) 研修医のためのワークショップ

本WSは、日本医学教育学会の卒後研修委員会が主催し、12月に軽井沢を会場として開催されている。2001年までに3回開催された。1回の参加者は約50名である。

## 3) その他

SP養成者教育ワーキング・グループが主催するWSが開かれている。

## 6. 大学、研修指定病院単位のワークショップ

前述した全国規模のWSの参加者が核となり、各大学における「学内WS」が企画・運営されてきている。1974年に、筑波大学で初めて学内WSが開かれた。1980年までに、先進的な13大学が学内WSをスタートさせたが、その後の全国的な広がりは遅く、21年後の1995年で36大学であった。しかし、この5年間で急速に広がり、2001年2月時点の調査結果では全国80医科大学・医学部中74大学が学内WSを実施していることが明らかとなった(図1)。その規模は1泊2日あるいは2泊3日のミニWSが多い。学内WSのテーマは、「医学教育の原理」ともいうべき「カリキュラム・プランニング」が多

いが、それにプラスし、新しいテーマを加えている大学もみられる。基本的な「カリキュラム・プランニング」のテーマで学内WSを修了した教員は、大学により差があるが、全国的には10~20%と推測される<sup>7)</sup>。また、研修指定病院でも2004年の卒後臨床研修必修化に向けて、研修プログラムの充実や指導体制強化のために病院内WSの開催が推し進められている。

## 文献

- 1) 大学審議会：21世紀の大学像と今後の改革方策について—競争的環境の中で個性輝く大学—。平成10年10月26日
- 2) 21世紀医学・医療懇談会第4次報告：21世紀に向けた医師・歯科医師の育成体制の在り方について。平成11年2月26日
- 3) 医学・歯学教育の在り方に関する調査研究協力者会議報告：21世紀における医学・歯学教育の改善方策について—学部教育の再構築のために—。平成13年3月27日
- 4) 医学教育白書、1982年、1986年、1990年、1994年、1998年度版
- 5) 第3~6回「臨床研修指導医養成講習会」記録
- 6) 第3~5回「基本臨床技能の教育法」ワークショップ記録
- 7) 堀内三郎、尾島昭次：日本における大学単位の医学教育ワークショップの現況—アンケート調査結果報告—、医学教育 2002, 33: 3-11